

## ■字のない葉書 (p. 32～35)

### ◆読解◆

#### ステップ1

- ① イ      ② ア      ③ ウ
- ① 自分宛ての宛名を書いた
- ② 字のない

#### ステップ2

#### 【前半】

- 1 こそばゆいのような晴れがましいような気分
- 2 ① 暴君  
② 威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親

#### 【後半】

- 1 ① まだ字が書けなかった  
② 元気      ③ マル      ④ ポスト
- 2 イ
- 3 **例** 帰ってくる妹を少しでも喜ばせようという筆者と弟の気持ちを理解していたから。

#### ステップ3

- 1 ① **例** 妹の帰りを待ち遠しく思い、また無事に帰ってくるかどうかが心配する気持ち。  
② **例** 少しでも早く妹の無事を確かめたいという気持ち。  
③ **例** 妹に会えてうれしい気持ちと、苦勞をさせて申し訳ないという気持ち。

## 2

**例** 私は、筆者の父は、照れ屋だが、家族を深く愛している人物だと思う。ふだんは「暴君」だったそうだが、筆者への手紙や、疎開した妹が帰ってきたとき、はだして飛び出して行って、妹を抱いて泣いた姿から、娘たちを愛していることがよくわかるからだ。

### 随筆を読んで視点を広げよう



随筆には、筆者が実際に見聞きしたことや体験したこと、それに対する筆者の思いなどが書かれているよ。  
さまざまな随筆を読んで、いろいろな人の考え方や感じ方にふれてみよう。そして、自分だったらどう思うだろうか？ と考えてみよう。筆者と自分の考え方や感じ方が、まったく違う場合もあるかもしれないね。自分と違う感覚をもつ人の考えを読むことで、「こういう考え方もあるのか」と視点を広げることができよ。

また、「字のない葉書」のように古い時代に書かれた随筆からは、当時の生活ぶりや、実際にその時代を生きた人の考えを知ることができ、過去の歴史について理解が深まるよ。